

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



Newspaper in Education
教育に新聞を

「世界の広さ実感できる」

作家、小川洋子さん 西宮・浜脇中の NIE 授業見学

今年夏の「第30回 NIE 全国大会神戸大会」で記念講演する芥川賞作家、小川洋子さん(62)＝西宮市在住＝が1月30日、西宮市立浜脇中学校で NIE 授業を参観した。生徒たちと机を並べ、記事について意見を交わす場面もあった。

小川さんは新聞を毎朝読み、記事から小説の種を拾うこともあるという。「NIE に活発に取り組む現場をぜひ見てほしい」と、兵庫の代表的活動校の一つである同校に案内した。

同校は週1回、自宅で新聞記事を選んで感想を書き込む「NIE ノート」に全校生約800人で取り組む。各クラスで社会科授業の冒頭に意見交換をする。2019年度に導入し、21年度から全校に広げた。

小川さんはまず、社会科の渋谷仁崇(よしとか)・主幹教諭による2年2組の「NIE ノート」の授業へ。生徒たちはグループに分かれ、自分が選んだ記事について、その理由や感想を話し合い、希望者が発表した。



生徒と一緒に NIE ノートの授業に参加する小川洋子さん＝西宮市立浜脇中学校(いずれも撮影・富居雅人)

埼玉県八潮市の道路陥没や阪神・淡路大震災で注目された災害弱者や災害救助犬など、記事はさまざまだった。

渋谷主幹教諭は、道路陥没について、下水道管の破損が原因とみられ、西宮市でも人ごとではないと説明。西宮市の公式ラインで、道路が盛り上がっている箇所などを通報できると紹介し、「みんなが注意することで、道路陥没を防げるかもしれない」と呼びかけた。

小川さんは熱心にメモを取り、生徒たちに「記事に書かれていないことまで踏み込むのは、文学と同じ。阪神・淡路から30年だが、みなさんが自然災害への意識が高いことに感心しました」と語りかけた。

続いて、「住み続けられるまちづくりを」のテーマで、2年生が新聞記事を基に考えたアイデアを披露する学年発表会を見学した。

終了後の取材で小川さんは、新聞を使った授業を初めて見たといい、「中学時代を振り返ると、家と学校しかなく息苦しかった。自分が生きている世界がどんなに広いのか、実感できる授業だと思った」と話した。

生徒が記事を見て自分ごととして考え、地元の町や国、地球へと視野を広げ考え抜く姿を見て、「新聞を本当に読むとはこういうことなんだと思った。習慣付けられれば、体験を言語化する能力につながっていくのではないかと語った。

(神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局 網 麻子)



新聞記事をヒントにしたアイデアを発表する生徒＝浜脇中学校

記事ヒント、まちづくり考える 浜脇中 神戸大会で発表

「住み続けられるまちづくりを」のテーマで、2年生が新聞記事をヒントにアイデアを出し合う西宮市立浜脇中学校の学年発表会では、各クラスからの代表計14人が登壇した。「住み続けられる」は国連の持続可能な開発目標(SDGs)の一つ。「NIE ノート」を発展させた取り組みで、全員がまちづくりのプランを考えた。

授業の冒頭、代表の生徒が「よいまちづくりを主体的に考えていきたい」と宣言。発表では、中学生らしいアイデアが次々と飛び出した。

「現状はできないけれど、雷のエネルギーを蓄えたり利用したりすれば、電力不足を改善できるのでは」「使用済みのペットボトルで手すりを作り、横断歩道に付ける」「ルクセンブルクでは、公共交通機関の運賃が無料化された。西宮市でできれば便利で環境にもやさしい」

小川洋子さんは「雷のエネルギーの利用など、今はできないことが心に残った。若い方々は、夢物語の可能性を常に考えていただきたい」と講評した。

同校では、日本国際博覧会協会などと連携し、大阪・関西万博を見学したり、SDGsの実践で知られる岡山県真庭市を訪れたりしながら、取り組みを深めていく。「第30回 NIE 全国大会神戸大会」で発表する。

神戸新聞 2025年01月24日 金曜日 面名 教育1 13 14ページ

なおみ先生の NIE 教室



神戸新聞社は新聞記事を基にワークシートを作成し、週に2回程度、神戸新聞NEXTのNIE (Newspaper in Education 教育に新聞を) サイトに載せています。ワークシートでは入試問題、小論文、面接で問われそうな記事を取り上げています。例えば2024年度入試の兵庫県立大環境人間学部小論文では、交流サイト(SNS)で情報の収集と発信をする際に気を付けるべきことが問われましたが、24年1月9日のワークシート「デマ拡散防止」は、同大の木村玲欧教授のコラムを基

⑥ 新聞ワークシート

に作成しています。

24年度入試の琉球大農学部亜熱帯生物資源科学科小論文で問われた培養肉、代替タンパク質の開発と「サステナブル社会の実現」については、23年6月12日の「代替肉の進化」が参考になったと思います。

兵庫県公立高校特色選抜の小論文と面接でも、国際、自然科学、環境、看護福祉など、受験校の特色に関連する社会課題について問われることがありますが、それに対応した問題集はなかなか手に入りません。

NIEワークシートは10分くらいで現代社会の諸問題を理解できるように作っています。

朝のホームルームや各教科の小テストで活用するのはいかがでしょうか。小論文を書くとき、試験会場で一から考えるか、現在議論されている論点を踏まえて述べるかで、格段に差がつきます。今からでも25年度入試に役立つかもしれません。

(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第4金曜に掲載。

よしだ・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内公立高校国語教諭、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

短時間で社会課題を理解